

須藤 京子 氏 学位審査結果の要旨

主査：木梨 達雄

副査：藺田 精昭、野村 昌作

食物アレルギーのなかで鶏卵アレルギーはもつとも発症率が高く、耐性獲得が困難な小児に対して積極的に免疫寛容を誘導することが求められている。須藤氏は自然寛解困難と推測される小児43名に対して在宅経口免疫療法 (Home-based oral immunotherapy, HBOIT)として卵白抗原を間歇的に投与し、徐々に増量する slow OIT について検討した。その結果、slow OIT 群では、抗原除去の対照群と比較し、有意に高い脱感作率が得られた。この内約80%の患者は耐性を獲得した。以上より、slow OIT は、従来の rush OIT より安全性、利便性の高い治療法であることが示され、学位に値する研究成果であると考えられる。